

症 例 報 告

| | | | | | | |
|---|---|-----------|--|--------|-------------------------------|----------------------------|
| 通し番号 | | 患者年齢 | 70 歳 | 患者性別 | 男・ 女 | 来局(調剤)・OTC 等相談)・在宅・入院・公衆衛生 |
| 領域番号 | 14 | 管理するプロブレム | バラシクロビルによる副作用を回避するとともに後遺症が生じていないかを確認する | | | |
| 自ら薬学的管理に関与した期間および回数 (開始年月日～終了年月日・回数) | | | | 期間(西暦) | 2021 年 4 月 1 日～2021 年 4 月 8 日 | |
| | | | | 回数 | 3 回 (内 フォローアップ 2 回) | |
| 患者背景 | 【自らの薬学的管理までの経過】 右側腹背部にピリピリ感と帯状の発疹あり。「帯状疱疹後の神経痛にならないように薬を飲み切るように」と医師より指示あり。採血はなく、腎機能は不明。小柄で 48 kg | | | | | |
| | 【病歴】 なし。過去に腎機能を指摘されたことはない | | | | | |
| | 【社会・生活歴(嗜好品含む)】 飲酒:なし、喫煙歴:なし、独居、普段の生活において汗をかくようなイベントはない | | | | | |
| | 【家族歴】 不明 | | | | | |
| | 【薬学的管理開始時の処方内容】 (1)バラシクロビル錠3000mg/日 (2)アセトアミノフェン錠1200mg/日(疑義照会にてロキソプロフェンより変更) | | | | | |
| 【他科受診・併用薬】 なし | | | | | | |
| 薬学的管理の要約 | <p>初来局のため患者の腎機能は不明。今までに腎機能を指摘されたことはないとのことだが、48 kgの小柄な高齢女性に対してのバラシクロビル 3000 mgは、精神神経症状や急性腎不全といった副作用リスクが心配。加えて、ロキソプロフェンの併用により、急性腎障害のリスクがさらに高まると考えられる(*1)。</p> <p>疑義照会を行い、腎機能とバラシクロビルの用量の確認ならびにロキソプロフェンの代替案としてアセトアミノフェンを提案した。医師も腎機能を把握しておらず、ロキソプロフェン 120 mg/日はアセトアミノフェン 1200 mg/日へ変更となったが、バラシクロビルの投与量に変更はなかった。後遺症予防のために医師の指示通りにしっかり服用するとともに普段よりも多めのコップ 1 杯の水で服用するように指導。意識がぼーとする、むくみ、尿量の減少といった症状が見られるときには薬局に連絡するように伝え、服用 2 日後に電話によるフォローアップへの承諾を得る。</p> <p>服用 2 日後のフォローアップでは、症状は残るものの、意識はしっかりしており、尿量の減少やむくみ等はなく推移。1 週間後、服薬終了時点でのフォローアップにおいて、精神神経症状や急性腎不全といった副作用、そして帯状疱疹による症状ならびに後遺症がないことを確認した。</p> | | | | | |
| | * 1 : Pharmacoepidemiol Drug Saf.2014;23:1154-9. PMID: 24788910 | | | | | |
| 文献等 | * 1 : Pharmacoepidemiol Drug Saf.2014;23:1154-9. PMID: 24788910 | | | | | |